

第2回コミュニティバス検討会議の発言内容**【アンケート結果の検討・市の経費負担】**

- 1 ちゅうバスが通っていない地域では、地元の人是不満を持っている。
- 2 年間の運行経費や補助金額から算出すると、ちゅうバスは100円の自己負担に50円の補助が加わっている計算になるが、路線バスは200円程度かかることと比較して、不公平である。
- 3 利用者からみれば、安くて補助が多いほうが好まれるのは理解できるが、利用できない地域もあることを考えると、多少の値上げもやむを得ない。ただし、路線バスよりは安くしてほしい。
- 4 経費負担について、今後も同額程度の負担を望む人が多い傾向だが、現在程度の額は市が負担してほしいが、これ以上経費が増える場合には利用者負担を増やしてもいいと読むことができるのではないか。
- 5 運賃に関する設問で100円を支持する割合が最も多く、市の経費負担に関する非利用者の意向が減らすべきと増やすべきで拮抗していることから、非利用者の中でもある程度市が経費負担をしていくことに対するコンセンサスは取れているのではないか。
- 6 補助金を減らしていくべきだというよりは、現状程度なら今後も負担していくのは構わないとの傾向と読み取れる。

【アンケート結果の検討・交通弱者への配慮】

- 1 アンケート回答者や回答内容の傾向から、ちゅうバスは高齢者の利用が多いと思われるので、交通弱者に配慮してほしい。
- 2 ちゅうバスの導入目的である交通弱者支援と交通不便地域の解消を重視すると、交通弱者の運賃を軽減するといった配慮が必要ではないか。
- 3 路線バスと同じにするという説明をする場合、シルバーパスを使うと路線バスは無料になるのにちゅうバスに割引がないとすると反発が出る可能性がある。
- 4 交通弱者への割引はやり方も様々で、行政、利用者双方に手間がかかる。
- 5 割引をした場合の財政的な試算も行う必要がある。
- 6 路線バスとの重複区間で、シルバーパスを持っているのに、停留所が近いちゅうバスに乗る事例があるように、高齢者の移動に寄与している。値上げにより収支は改善したものの外出機会が減ってしまうとすると、本来の目的にそぐわないため、交通弱者の負担の軽減は考慮すべき課題である。
- 7 シルバーパスの制度がない都道府県では、当然に高齢者割引がない事例

もある。

- 8 高齢者が全員シルバーパスを持っているわけではなく、比較的女性は持っているが男性は少ない。高齢者ということで一律で条件を付けると、様々な意見が出るかもしれない。
- 9 シルバーパスを割引要件にすると、ちゅうバス沿線の人はずももも持っていない可能性がある。

【交通弱者への配慮に関する他事例】

- 1 東京都内で、基本運賃100円で運行している場合は高齢者割引がない事例がほとんどだと思われる。
- 2 基本料金が路線バス並みの場合では、当初からシルバーパスが使える事例があるが、近年値上げした場合は割引がない事例が多いようである。
- 3 シルバーパスで無料にするという取り扱いをしていて、その分を自治体が負担しているという事例は少ない。
- 4 自治体独自の割引により、高齢者が無料という事例はないのではないかとと思われる。

【路線変更】

- 1 規制区域内を通行許可を得てちゅうバスを通そうとする場合、地域の合意が必要になるとと思われる。
- 2 路線変更区域以外の利用者からは、所要時間が増える等不満が出る可能性がある。
- 3 前回示していた従来案にまずは変更し、課題が解決した後で今回案に再度変更するという事は、やり方としてはあり得る。

【その他】

- 1 車内でたくさんの方が立っている状況が見受けられ、考えるべき問題である。
- 2 ちゅうバスが通っていない地元の意見では値上げしてでも通してほしいという意見が多かった。
- 3 運賃については、全路線一律である必要はなく、路線別に設定することもあり得る。